

特集

ガクメシ

学飯

お昼ご飯、何食べた？



友人と一緒に食べるお昼ご飯は、学校での楽しみの一つではなかったでしょうか。今回の特集記事では、その昼ご飯「学飯」に焦点をあてております。学校での昼ご飯といえば「お弁当」が主流ですね。まずは、その変遷をご覧ください。お弁当を作られる方の工夫や愛情が伝わってくるようです。現在の食堂はもちろん、旧食堂の通称「うどん小屋」を御愛用の方もいらっしゃると思います。当時と現在食堂の変化についてもご覧ください。

昭和37年頃のお弁当

昭和45年頃



教室での昼食風景



【表紙のお弁当】

このお弁当は、昭和38年卒の方々からお聞きして、広報委員会が再現したものです。

おかずはきんぴらごぼう、油揚げの煮もの、昆布と椎茸の煮もの、梅干し。当時はこの家庭でも梅干しを漬けていました。米農家などは白米だけの白ごはんでしたが、普通の家は白米に押し麦を混ぜた麦ごはんでした。底に麦ごはんを詰め、表面には白ごはんを乗せるなど、気を遣う家もあったようです。

白ご飯と肉料理の入ったお弁当を食べていた方は、後の同窓会で、「あなたのお弁当にはいつも肉が入っていた。自分のは野菜ばかりだったので、羨ましかった。」と言われていました。野菜だけのおかずが普通だった時代でした。